

名護委員会 基本方針

名護委員会

委員長 山根 大司

『未来への絆』

「行ってきます！」東京の大学へ向かう飛行機に乗り込む時に、期待に胸を膨らませながら、笑顔で手を振った私とは対照的に、母は涙を浮かべていました。飛行機の中でその涙の意味を考えた時、親の愛情に気付き、親への感謝の心を実感したことを今でも覚えています。滝川名護児童交歓事業は、地域の宝である児童と責任世代である私たちが真摯に向き合い、親への感謝の心と児童の友情を育むことで未来への絆を紡ぐ事業であり、私たちの未来である子どもたちを地域で育てる姿勢が必要です。

まずは、名護児童滝川受入において児童が心の成長をしていくために、北海道における厳しい冬の寒さの中、郷土と異なる生活や文化を共に体験し、感受性や知識の幅を広げます。さらに、思いやりの心を育むために、私たちがつつじ会の皆様と密な連携を取り、名護児童と滝川児童、受入れ家庭が交流しながら共に助け合い、学び合うことで、かけがえない絆を結びます。つぎに、滝川児童名護派遣では、集団行動や礼節を学ぶために、事前研修を通じて、時に厳しく真剣に向き合いながら社会性や協調性を伝え、仲間との絆を深めて、自発的に行動できる集団へと成長させ名護へ向かいます。そして、派遣児童たちが大人の第一歩として大きな成長を得るために普段の生活では感じることのできない一生の思い出となる経験をし、北海道とは異なった沖縄の文化や風習を体感することで派遣児童の知識の幅を広げます。さらに、名護青年会議所との入念な打ち合わせのもと、親元を離れる児童をサポートし、名護の受入れ家庭の温かさに触れるホームステイを行うことで、親への感謝の心と、仲間との絆を育みます。また、名護派遣報告会では、この事業を未来へと紡いでいくために、児童たちが体験してきた思い出と経験を事後研修にてまとめ、滝川児童名護派遣の集大成として一回りも二回りも成長した姿を見ていただき、子は親への感謝の心を伝え、親が子の成長を実感いただく事業といたします。そして、派遣児童増加へと繋げていくために、行政と連携を取り、各企業や団体へご協力を仰いで、学校や市内で行われる様々な活動の場にて広報活動を行い、事業の魅力を多くの市民に広めます。

歴史と伝統ある滝川名護児童交歓事業を経験した児童が得た親への感謝の心、児童同士の友情は、やがて未来の絆となり紡がれます。これらを継承し、より発展させるため「共利群生」を胸に、事業に対して清新に向き合い委員会が一丸となり邁進して参ります。